



令和年 居宅6月号 山産新聞 Vol.

TEL 079-253-8168
FAX 079-251-2388

〒671-0252 姫路市花田町加納原155

いつもお世話になっております。

山彦ホームの井手です。新緑の季節ですね。山も緑の葉っぱでもこもこして、生き生きして見えて、私もわくわくしてきます。ドライブが好きなのは、休みの日は、花を見に行ったりします。5月初め芝桜を見に行きました。山の斜面一面がピンク色で綺麗で感動しました。その帰り道、れんげ草が田んぼ一面これまた、淡いピンク色で綺麗で嬉しくなりました。

子どもの頃は、れんげ草で花かんむりを作ったりしたことを思い出しました。れんげ草は春の季語であり、「れんげ畑」は「春の風物詩」でもあります。レンゲのゆでた若芽は食用になるそうです(おひたし、汁の実、油いため他)また、民間薬として利用されることがあります。(利尿や解熱など)です。「れんげ草」の花言葉は、「あなたと一緒になら苦痛がやわらぐ」「心がやわらぐ」です。「これはれんげ草」に薬効があることに由来している

そうです。レンゲは自然に咲いているとおもっていました。そうでないと聞いたことがあり、調べてみました。農家の人が田んぼの稲を収穫した後、田んぼに種をまくそうです。なぜ、わざわざレンゲの種をまくのでしょうか。

レンゲが「緑肥(りよくひ)」になるからです。緑肥とは、草などを青いままですすきこんで、栽培植物の肥料とするものを意味するそうです。レンゲは「マメ科」の植物ですが、根っここのところにある「根粒」というごぶに「根粒菌」という細菌をすまわせ根粒菌から養分をもらっている。根粒菌には、空気中の窒素を植物の使える形に変える特別な能力があるので、レンゲには土を肥やす効果があり、稲を植え付けるまえにレンゲを作っておいて、土の肥料分を増やしておくそうです。レンゲは自然の有機質肥料です。「レンゲ農法」とよばれるそうです。れんげ草は綺麗で可愛いだけでなくすごい力を持った花だということをお知らせしました。

